

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月13日

【評価実施概要】

事業所番号	3790100162
法人名	アイコーポレーション株式会社
事業所名	グループホームあい
所在地	香川県高松市川部町1300番地1 (電話)087-886-5558

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年12月5日	評価決定日	平成21年2月13日

【情報提供票より】(20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年6月1日
ユニット数	2ユニット	利用定員数計 18人
職員数	18人	常勤 12人, 非常勤 6人, 常勤換算 13.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 1階建て
------	--------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	21,000円+実費	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200円	

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	2名	要介護2	6名		
要介護3	6名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 85.1歳	最低	60歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高松市民病院、オサカ病院、藤井外科胃腸科、あきやま内科泌尿器科クリニック、ツゲ医院、西原眼科医院、今瀧歯科クリニック
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

木造風鉄筋平屋建ての建物は、一般住居と変わらない趣きで緑が多く落ち着いた雰囲気の中、利用者が安心して生活できる環境である。道路をはさんで前は運動公園となっていて散歩や交流の場として活用している。食材のほとんどがまかなわれている菜園は、手入れが行き届き新鮮な食材を日々の食生活に利用している。米のとぎ汁、生ごみリサイクルの設備がされ有効な取り組みがされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価同様、運営理念の啓発、さらにケアサービスへの反映においては評価を活かし一層の努力を期待する。 職員の努力による地域との交流は次第に増えており、徐々に広がっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者を中心に各ユニットごとの職員の意見を尊重し、自己評価に前向きに取り組んでいるのが受け取れる。さらに評価改善に努め、日常の支援が実践されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>多くの参加者のもとに地域の中でホームの機能なども開示されている。ホームの機能が地域に開示されることで存在感へと結びつき、地域密着型サービスとしての地域交流へ拡大できると考えられる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>月1回の「あいだより」で利用者の健康状態、ホームでの様子、金銭に関することなど報告している。面会時には職員が対応し、状況報告したり意見交換し運営に反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域、近隣とは日常的に連携をとるよう努めている。ホームへの理解も深まり、行事への参加もしている。運営推進会議においても地域連携に関することを議題に上げ理解に努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・愛・・・あいさつ、思いやり、声かけ ・誠・・・誠実、尊厳、自立支援 愛と誠の項目を3つずつ基本的に具体化しているが、地域と密着するサービスを理念につくり上げるまでには至っていない。	○	愛、誠に示されていることは基本であるが具体的表現がされ、地域に密着したサービスケアを含め具体化した理念をつくりあげることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「愛・誠」の理念のもと、日々いろいろと試みをしている。理念は地域密着型として検討・共有し、具体的実践に向け工夫し取り組むまでには至っていない。	○	理念は福祉的観点から基本的事項であるため、共有実践に向け意識的に内容分析、検討し、さらなるケアへの反映、実践につながることを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	気軽に挨拶することに始まり、ホームの行事に招待している。また、地域活動、文化祭、敬老会、運動会など案内され参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	現状把握を自己評価で行い、外部評価における要改善点は皆で話し合い取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、利用者参加、地域の方々、市職員の参加で日々の取り組み状況の報告や意見交換を行い、サービス向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当課に事業所の行事について案内したり、不明な点がある時の助言をもらい、行き来する機会を多くもつよう努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「あいだより」で個々の健康状態、金銭関係、職員紹介などについて送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の対応での機会がほとんどで利用者と家族の対話の中から意見を聴いている。また、直接聞いた意見を管理者、職員で共有し運営に反映させている。月1回の職員定例会でも話し合っている。	○	意見箱の活用の工夫も期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動も極力ないように配慮し、利用者へのダメージ防止に努めている。2ユニット間を職員も交流し、利用者に全員で関わっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受ける機会が多く、出張扱いで積極的に参加している。	○	外部研修の取り組みと同時に内部研修にも力を入れ段階に応じて計画を立て職員育成の取り組みを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのネットワークづくりに努め、他のホームを訪問し勉強している。常日頃、他ホームとの交流を持つよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	雰囲気馴染める工夫として利用者の自宅訪問、ホーム見学などを試みホームでのサービス開始につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事準備、野菜づくりなどを共にし、食の楽しみ、収穫の喜びなど共に分かち合っている。時に利用者の知恵を拝借といった場面もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思い、意向の把握に時間をかけ、アセスメントの段階で本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用時本人・家族の要望や意見を取り入れ、アセスメントを行っている。本人や必要な関係者との話し合いも充分に行っていきたいと考えている。	○	本人も一緒にアセスメントしているが、家族参加も望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3か月に1回の見直しをしているが、状態変化時には、その都度必要な関係者と話し合い見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関を受診の際、必要に応じ職員による送迎支援をしている。また、利用者が急変した場合、職員の呼び出し体制が確保されており対応できる。 食事準備、菜地園などで共に作業し、地域の菜地園ボランティア受入、自由に来園できるよう柔軟な支援、要望に沿える体制をとっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を聞き入れその方にあった医療が受けられるよう支援している。受診の際、同行者(付き添い)が一定でないので、職員間での情報の共有および医師への情報提供が重要であると考えている。	○	医師への情報提供を適切なものにするために、職員間の申し送りを十分なものにし、情報の共有化が望まれる。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族の希望を重視し職員が同じケアに当たれるよう医師と相談している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者が尊重され、誇りやプライバシーが損なわれるような言葉かけ、対応は見受けられない。個人情報の取り扱いについても重要性を認識している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムを把握し、利用者本位の介護を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜地園からの新鮮な食材の下ごしらえから、利用者や職員が共に行い、楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	極力本人の希望に沿うよう、無理強いせず入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事準備、片付け、菜地園の手入れなど自主的に参加して楽しんでいる。また、レクリエーションの内容を充実して楽しむなど生活の張り合いや喜びにつながる支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム前の公共運動公園に出かけたり、外食、外出支援は希望に応じて支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室の施錠は基本的に行わず見守りに配慮している。施錠の弊害を職員は理解している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回消防署の指導を受けており、ホールに防災マップを張るなど常に気をつけている。地域の協力体制、マニュアルの作成もできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつ、食事の時間に摂取量をチェック記入しており、水分、栄養の摂取に注意している。 状態に応じてトロミづけ寒天、ゼリー状といった工夫がされ一人ひとりに合った支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットの中央に調理場所が設けられ、食事時には美味しい匂いが漂い生活感が感じられる。共有空間の広いガラス戸から戸外の季節感も採り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、好みの装飾品が配置され居心地よく過ごせる工夫、支援が行われている。		